

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300267		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一長泉(1階、2階)		
所在地	静岡県駿東郡長泉町桜堤2-10-10		
自己評価作成日	平成26年1月13日	評価結果市町村受理日	平成26年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2271300267-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

車通りの少ない閑静な住宅地の中にあり、桜堤の番地名が示すように川沿いの桜並木が臨め、天気さえ良ければ毎日のように、散歩には絶好の遊歩道沿いにある公園まで出掛けております。日常の活動としては食事の手伝いや洗濯物干し、清掃など色々な事をやっていただき、個人個人が役割をもって暮らせるように支援させていただいており、また、ハーモニカボランティアや大正琴の慰問、近隣幼稚園の園児との相互の訪問など、地域との関わりの機会もあります。コラージュ療法を取り入れる等、認知症の方の持てる力を引き出す事を心掛けており、個々での買物や外出にも出来る限り対応し、その人らしく、生き生きと生活していただけるような環境作りのお手伝いを心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街にある事業所の玄関にはベンチが備えられていて、天気の良い日は日光浴しています。建物の中からは歌声が響き、普段から屋内外で運動をおこなっていることから活のある生活が覗えます。2年前から教育に力を入れており、リーダー研修や、認知症の理解など多様な内部研修がおこなわれています。職員は外部研修にも積極的に出向き、新しい発見や向上につながっています。また切り抜きを台紙に自由に貼りつける『コラージュ療法』を取り入れ、自由な創作活動の中から落ち着きや安定度を測り、集団生活を送るうえでの参考にしています。管理者も職員の成長を感じ、今後も向上が期待される事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き生き生きる』を理念とし、その人らしい生き方が実現できる場を提供できるよう努力している。また、月1回開催される各ユニット会議においても理念の共有化を図るようにしている。	理念にもとづき、個々のスタイルや生活リズムを尊重した介護方針を定めて実践しています。理念は法人全体の目標として、利用者だけでなく職員自身も「生き生き生きる」ことをめざして運営しています。	ユニットごとの目標を作成することにより、チームワークが高まることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の催し事に、地域の方にも参加して頂いている。 町立北幼稚園との交流 催し物の際の、来所の呼びかけ。	本年度からの取組みとして、事業所で開催する運動会とクリスマス会に近隣から住民を招いています。中学生の協力も得て、利用者との交流が自然に実現しました。近所の老夫婦からの相談で、急遽の体調不安に駆けつけたこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、福祉教育の受け入れ等を行っている。 散歩時など、地域の方との挨拶から、会話をするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や、行政、医療機関代表を招いて行い、話し合われた事は実践出来る様にしている。地域の行事についても会議の中で話し合い、参加方法等を決めている(とんどん焼き、地域防災訓練等)	行政職員、病院の事務長、訪問看護師、事業所職員が参加しています。会議では防災訓練や食中毒の予防に関する話し合いがおこなわれています。またイベント開催当日の様子や状況を詳細に報告することで、臨場感のある会議となっています。	地域の人が運営推進会議に参加することを期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口への書類等の提出は、出来るだけ直接提出したり、地域運営推進会議への参加も積極的にお願している。	町主催の介護従事者向け研修会が年間7回以上実施されるようになり、積極的に職員を参加させています。研修に関する意見懇談会にも出席し、今後の研修指導の在り方について発言する機会となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのか、職員の理解を得よう努め、月1回開催される各ユニット会議においても折に触れ、話し合っている。昼間は施錠せず、職員見守りにて自由散歩できる。夜間のみ防犯の為施錠。	原則として日中は玄関の施錠をしていません。夜間せん妄に悩む利用者も居ますが、特段他の利用者に迷惑をかけることもないため、拘束はおこなわれていません。介護ベットを柵で囲う行為や、スピーチロックについても身体拘束として職員に周知しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議や日々のミニカンファレンスの中で、虐待に当たる行為が無いよう、確認しあっている。地域の介護従事者研修にも積極的な参加を促し、認知症高齢者への理解を深める機会を持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括、社協とも連携し、権利擁護が必要な方には、その活用法について説明し、援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約の内容全てをお話して、十分に理解していただいた上での契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気づきシートを作成している。直接利用者様に要望、困っている事などを聞き取り、担当者会議に提出。御本人の満足度向上に役立っている。	利用者から意見があれば、気づきシートに記載して業務に反映させています。家族会は現在ありませんが、面会時には会話をもつよう努め、毎月手紙を送付し時には電話連絡で切れ間のない情報提供をおこなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議の中で行ったり、申し送り時にも提案できる様にしている。	月1回のユニット会議ではシフトや職種における違いを調整し、忌憚なく進言してもらうことで円滑な運営となっています。研修会への参加を機に、新しい取り組みや改善の意見も挙げられるようになりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートから常勤職員へ移る際の評価方法や昇給の基準等、明確なものを作成。半年に一度、職員評価シートで自己評価を記入して頂いた上で管理者による公正な評価をし、個々の努力や実績を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には積極的に参加してもらうように、事務所内掲示板に掲示してある。また、ホーム内でも随時指導をおこなっている。社内研修室を立ち上げ、年間20回程度の研修を行い、各職員に適した研修を選び、参加して頂く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括主催の研修会に積極的に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。相互訪問が出来る環境を整えていく予定。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、十分なアセスメントをとるようにしている。入居後すぐは、なれない事も多くあるため、会話する時間を充分にとり、不安感を取り除けるよう傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とは別の席を設け、改めてお話を伺うようにしている。 また、そのケースごとの事情に鑑みて、その都度柔軟に対応するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き状況を把握し、居宅支援事業者、または利用中の福祉サービスとも連携を取りながらの対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生きがいのある生活の為、一人ひとりが残存能力を活かし、役割を持って暮らしていけるような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上でより良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの方が訪ねてきており、懐かしい場所へ出向く事もある。 手紙の交換などの促しや支援を行っている。	利用者の希望で自宅や実家に行ったり、墓参に立ち寄っています。週に1泊程度の外出や家族同行での昼食外出も奨励しています。今後は個別支援として誕生日に好きな場所にでかけることも企画しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子を見て随時話し合いながら、孤立する事が無いよう支援している。 利用者同士のトラブルが起こった際は、すみやかに間に入り、仲裁出来るよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。 利用者様、一人一人にあった話し方を心掛けるようにしている。	意向把握の一つの方法として、家族から利用者のライフストーリーを聞き取っていて、昔の苦労話などをきっかけとしてコミュニケーションを深めています。職員は申し送りノートに気づいたことを順次記入し、必要に応じて会議で話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の面会時などには、出来る限り会話をし、自宅での生活時の様子、好みの物など、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの方、それぞれの生活パターンを観察し、レクリエーションや生活リハビリなどを通して、精神的、肉体的能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、ご家族の要望も取り入れながら介護計画書の作成をしている。	ユニット会議と日を合わせてカンファレンスをおこない、気づきシートを話し合いの資料としています。利用者からも意向や意欲を直接聞き出して、本人本位の計画作成につなげています。計画原案は家族にも郵送し、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活日誌、経過記録等の記入を行ない、朝・晩の申し送り、連絡ノートの記入、確認にて情報の共有を行なう事で、より良い介護ができる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、娯楽等の支援を行なっている。 個別のニーズに関してもケース毎に検討し、必要と思われることを柔軟に提供しよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園との交流や、中学生等の福祉教育の受け入れ等積極的に行なっている。又、運営推進会議等を通じ、行政からの情報も常に集めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在週1回往診に訪れ、24時間の電話相談にも応じてくれているDrがおり、日々の体調の変化を報告、処方薬の管理等を行う。また、それ以外の治療を希望される方にも受診等応えている。	協力医による往診のほか、在宅時からのかかりつけ医が往診に来てくれることもあります。訪問看護が毎週派遣されていて、医師との連携も十分にとれています。運営推進会議には病院の事務長が参加しているため、医療に関する相談や助言を求めることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回訪れ介護側と相談しながら入居者の体調の管理を行ない記録に残していく。また、訪問看護師の訪問時、随時採血等を行い、往診のDrに直接その結果が届くようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺った際など医師との情報交換を行い、ご本人様の体調をみながら早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、全員で支援している。	本年度から『看取りおよび医療連携に関する指針』を作成しました。重度化や終末期に際して事前に意向を文書で整えることにより、事業所としてできることを十分におこなえるようにしています。また、協力医とは24時間の連絡体制がとれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に対応出来るようにマニュアルを作成してある。応急対応等の研修はまだ一部の職員しか受けておらず、今後段階的に行なう予定でいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加させて頂く予定でいる。	防災訓練では実践的な取組みがあり、例えば2階の利用者ができる限り階段を使って移動するメニューもあります。また運営推進会議を防災訓練の日に合わせてすることにより、参加者の行政職員からは防災に関するアドバイスを得ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人として尊重し、それ相応の言葉掛けを選ぶよう注意合っている。「ありがとうございます」「助かります」「すみません」「お世話様です」などの言葉を、職員が言うようにしている。	新入職員に不適切な言葉遣いがあったものの、研修会への参加から成長したという例もあり、教育の仕組みが根付き始めています。また介護スキルの向上によっても発言が改善されています。事業所では「ありがとう」という感謝の言葉が多くみられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後や朝の着替えの洋服など、できるだけご自分で選んで頂くようにしている。食事で食べたいメニューや、レクリエーションで行なう事など、都度、利用者様に希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で一人の時間を作りたい方、散歩の時間以外でも外に出たい方に対応したり等、出来る限り個別の対応が出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりに対し部屋担当が居り、衣服や内装に関して主となって気を配り、他の職員や御家族にも随時提案する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ、野菜の皮剥きや食器の片付けなど、一人ひとりが可能な事を職員が考えて、声掛けを行い、出来る限り手伝っていただけるような支援を行う。	法人本部から栄養価にもとづいた調理仕様の提示があります。また月に何回かは「おたのしみメニュー」として自由な創作料理が披露されます。準備や片付けを利用者にも手伝ってもらうことで自信につながり、役割をもった食習慣に結び付けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食材の買い物に行き、新鮮でバランスの良い食事の提供に心掛けている。食事の摂取量を毎食記入して、体調の状態が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は入歯の洗浄・保管や洗口液の使用など、徹底している。必要に応じて、歯科受診も行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員が把握して時間で誘導するように心掛けている。パットや紙パンツの使用も可能な限り夜間のみとする努力を行なっている。	リハビリパンツからパットや失禁対応パンツに向上させたり、入所を機に失禁も減って通常の排泄となった事例もあります。ごぼう茶、水分摂取、運動による適切な排便コントロールがおこなわれていることから自立へ向けた意識の高さが観えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを理解して、早めに対応出来るようにしている。また、毎日体操や散歩の時間を設けたり、牛乳やごぼう茶を飲んでもらう等、生活の中での工夫も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回以上の入浴を基本として声掛け行い、今入るかどうかを本人に決めて貰ってから、なるべくゆっくりと入浴していただけるようにしている。	3日に1回の入浴を原則としています。足ふきマットと、イスに敷くマットは感染予防のため利用者ごとに毎回替えています。脱衣場にも温度計を設置して体温が急激に変化することを防いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は色々な手伝いをさせていただき、また身体を動かして夜はゆっくりと休んでいただけるようにしている。睡眠を強要せずに、寝たい時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成して、薬情報ははさんである。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が読むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが趣味や生活歴を理解するために日頃から情報収集行い、楽しいと思えることを勧められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の30分ほどの散歩外出は出来る限り行い、個別での希望外出等にも対応することが出来るように職員の人員配置に配慮し、買物や家族との外出を支援するなど、定期外出の機会を増やす努力をしている。	事業所前の堤沿いの桜並木が広い遊歩道となっていて、車いすの利用者にとっても快適な散歩コースです。近くの幼稚園との交流も毎年続き、年に2回は見学に出かけています。また法人から自動車が借りられるので、ユニット内の利用者が一緒に外出することができます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望者にはご自分でお金を所持し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の事情が無い限り、好きな時に電話をしていただいたり、手紙を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は畳の間にコタツがあり、ゆったりと落ち着いている。居間には入居者様の作品や、職員との協同作品などを置いてある。オープンキッチンで食事の支度や匂いもなども伝わるようになっている。	共用空間にはカレンダーや行事の写真、季節ごとの創作物が飾られています。日中はカルタやクイズ、歌に合わせた体操のレクリエーションがおこなわれています。利用者が参加しやすいようにゲーム内容を合わせたり、職員の雰囲気づくりがみられ楽しく過ごせる様子が確認されました。	「職員が元気よい」という印象がありましたので、今後もレクリエーションやゲームの充実により楽しく健康に過ごせることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、利用者の席順を決めず、気の合う方同志が、好きな場所に座れるようにしている。リビングのソファや畳スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前愛用していた物を置いていただいている。また、ご家族との写真やホームでの写真、入居者様の作品を飾るなどして居室内環境への工夫を行っている。	おしゃれな黒板を表札として、利用者の名前とともにイラストで自分の居室が分かりやすくなっています。ベット、家具、テーブルや仏壇が利用者ごとに持ち込まれ、写真や塗り絵などの作品が並んでいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手すり等設置し、歩行スペースを広く取る為、配置には気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『生き生き生きる』を理念とし、その人らしい生き方が実現できる場を提供できるよう努力している。また、月1回開催される各ユニット会議においても理念の共有化を図るようにしている。	理念にもとづき、個々のスタイルや生活リズムを尊重した介護方針を定めて実践しています。理念は法人全体の目標として、利用者だけでなく職員自身も「生き生き生きる」ことをめざして運営しています。	ユニットごとの目標を作成することにより、チームワークが高まることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の催し事に、地域の方にも参加して頂いている。 町立北幼稚園との交流 催し物の際の、来所の呼びかけ。	本年度からの取組みとして、事業所で開催する運動会とクリスマス会に近隣から住民を招いています。中学生の協力も得て、利用者との交流が自然に実現しました。近所の老夫婦からの相談で、急遽の体調不安に駆けつけたこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ、福祉教育の受け入れ等を行っている。 散歩時など、地域の方との挨拶から、会話をするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様のご家族や、行政、医療機関代表を招いて行い、話し合われた事は実践出来る様にしている。地域の行事についても会議の中で話し合い、参加方法等を決めている(とんどん焼き、地域防災訓練等)	行政職員、病院の事務長、訪問看護師、事業所職員が参加しています。会議では防災訓練や食中毒の予防に関する話し合いがおこなわれています。またイベント開催当日の様子や状況を詳細に報告することで、臨場感のある会議となっています。	地域の人が運営推進会議に参加することを期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当窓口への書類等の提出は、出来るだけ直接提出したり、地域運営推進会議への参加も積極的にお願している。	町主催の介護従事者向け研修会が年間7回以上実施されるようになり、積極的に職員を参加させています。研修に関する意見懇談会にも出席し、今後の研修指導の在り方について発言する機会となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が身体拘束にあたるのか、職員の理解を得よう努め、月1回開催される各ユニット会議においても折に触れ、話し合っている。 昼間は施錠せず、職員見守りにて自由散歩できる。夜間のみ防犯の為施錠。	原則として日中は玄関の施錠をしていません。夜間せん妄に悩む利用者も居ますが、特段他の利用者に迷惑をかけることもないため、拘束はおこなわれていません。介護ベットを柵で囲う行為や、スピーチロックについても身体拘束として職員に周知しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議や日々のミニカンファレンスの中で、虐待に当たる行為が無いよう、確認しあっている。地域の介護従事者研修にも積極的な参加を促し、認知症高齢者への理解を深める機会を持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括、社協とも連携し、権利擁護が必要な方には、その活用法について説明し、援助を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は必ず契約の内容全てをお話して、十分に理解していただいた上での契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気づきシートを作成している。直接利用者様に要望、困っている事などを聞き取り、担当者会議に提出。御本人の満足度向上に役立っている。また、御家族の面会時やケアプランの説明時に、意見や要望を聞くようにしている。	利用者から意見があれば、気づきシートに記載して業務に反映させています。家族会は現在ありませんが、面会時には会話をもつよう努め、毎月手紙を送付し時には電話連絡で切れ間のない情報提供をおこなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議の中で行ったり、申し送り時にも提案できる様にしている。	月1回のユニット会議ではシフトや職種における違いを調整し、忌憚なく進言してもらうことで円滑な運営となっています。研修会への参加を機に、新しい取組みや改善の意見も挙げられるようになりました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パートから常勤職員へ移る際の評価方法や昇給の基準等、明確なものを作成。半年に一度、職員評価シートで自己評価を記入して頂いた上で管理者による公正な評価をし、個々の努力や実績を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には積極的に参加してもらうように、事務所内掲示板に掲示してある。また、ホーム内でも随時指導をおこなっている。社内研修室を立ち上げ、年間20回程度の研修を行い、各職員に適した研修を選び、参加して頂く。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括主催の研修会に積極的に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。相互訪問が出来る環境を整えていく予定。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、十分なアセスメントをとるようにしている。入居後すぐは、なれない事も多くあるため、会話する時間を充分にとり、不安感を取り除けるよう傾聴する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様とは別の席を設け、改めてお話を伺うようにしている。 また、そのケースごとの事情に鑑みて、その都度柔軟に対応するようしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話をよく聞き状況を把握し、居宅支援事業者、または利用中の福祉サービスとも連携を取りながらの対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生きがいのある生活の為、一人ひとりが残存能力を活かし、役割を持って暮らしていけるような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の関係を理解し、立場を認め、その上でより良い関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、馴染みの方が訪ねてきており、懐かしい場所へ出向く事もある。 手紙の交換などの促しや支援を行っている。	利用者の希望で自宅や実家に行ったり、墓参に立ち寄っています。週に1泊程度の外出や家族同行での昼食外出も奨励しています。今後は個別支援として誕生日に好きな場所にでかけることも企画しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の様子を見て随時話し合いながら、孤立する事が無いよう支援している。 利用者同士のトラブルが起こった際は、すみやかに間に入り、仲裁出来るよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを必要として下さる方とは、長くお付き合いをして頂けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。 利用者様、一人一人にあった話し方を心掛けるようにしている。	意向把握の一つの方法として、家族から利用者のライフストーリーを聞き取っていて、昔の苦労話などをきっかけとしてコミュニケーションを深めています。職員は申し送りノートに気づいたことを順次記入し、必要に応じて会議で話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族の面会時などには、出来る限り会話をし、自宅での生活時の様子、好みの物など、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの方、それぞれの生活パターンを観察し、レクリエーションや生活リハビリなどを通して、精神的、肉体的能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の各ユニット会議、随時のカンファレンス、日々のケアの中で意見交換を行い、ご家族の要望も取り入れながら介護計画書の作成をしている。	ユニット会議と日を合わせてカンファレンスをおこない、気づきシートを話し合いの資料としています。利用者からも意向や意欲を直接聞き出して、本人本位の計画作成につなげています。計画原案は家族にも郵送し、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活日誌、経過記録等の記入を行ない、朝・晩の申し送り、連絡ノートの記入、確認にて情報の共有を行なう事で、より良い介護ができる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買い物、娯楽等の支援を行なっている。 個別のニーズについてもケース毎に検討し、必要と思われることを柔軟に提供しよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園との交流や、中学生等の福祉教育の受け入れ等積極的に行なっている。又、運営推進会議等を通じ、行政からの情報も常に集めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在週1回往診に訪れ、24時間の電話相談にも応じてくれるDrがおり、日々の体調の変化を報告、処方薬の管理等を行う。また、それ以外の治療を希望される方にも受診等応えている。	協力医による往診のほか、在宅時からのかかりつけ医が往診に来てくれることもあります。訪問看護が毎週派遣されていて、医師との連携も十分にとれています。運営推進会議には病院の事務長が参加しているため、医療に関する相談や助言を求めることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週2回訪れ介護側と相談しながら入居者の体調の管理を行ない記録に残していく。また、訪問看護師の訪問時、随時採血等を行い、往診のDrに直接その結果が届くようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺った際など医師との情報交換を行い、ご本人様の体調をみながら早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつある入居者への対応は、ご家族やかかりつけの医師と相談しながら、全員で支援している。	本年度から『看取りおよび医療連携に関する指針』を作成しました。重度化や終末期に際して事前に意向を文書で整えることにより、事業所としてできることを十分におこなえるようにしています。また、協力医とは24時間の連絡体制がとれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に対応出来るようにマニュアルを作成してある。応急対応等の研修はまだ一部の職員しか受けておらず、今後段階的に行なう予定でいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、災害時の対応や手順等の訓練を行う。また、地区の防災訓練等にも参加させて頂く予定でいる。	防災訓練では実践的な取り組みがあり、例えば2階の利用者ができる限り階段を使って移動するメニューもあります。また運営推進会議を防災訓練の日に合わせることで、参加者の行政職員からは防災に関するアドバイスを得ています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを個人として尊重し、それ相応の言葉掛けを選ぶよう注意している。「ありがとうございます」「助かります」「すみません」「お世話様です」などの言葉を、職員が言うようにしている。	新入職員に不適切な言葉遣いがあったものの、研修会への参加から成長したという例もあり、教育の仕組みが根付き始めています。また介護スキルの向上によっても発言が改善されています。事業所では「ありがとう」という感謝の言葉が多くみられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴後や朝の着替えの洋服など、できるだけご自分で選んで頂くようにしている。食事で食べたいメニューや、レクリエーションで行なう事など、都度、利用者様に希望を聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で一人の時間を作りたい方、散歩の時間以外でも外に出たい方に対応したり等、出来る限り個別の対応が出来る様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりに対し部屋担当が居り、衣服や内装に関して主となって気を配り、他の職員や御家族にも随時提案する等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ、野菜の皮剥きや食器の片付けなど、一人ひとりが可能な事を職員が考えて、声掛けを行い、出来る限り手伝っていただけるような支援を行う。	法人本部から栄養価にもとづいた調理仕様の提示があります。また月に何回かは“おたのしみメニュー”として自由な創作料理が披露されます。準備や片付けを利用者にも手伝ってもらうことで自信につながり、役割をもった食習慣に結び付いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食材の買い物に行き、新鮮でバランスの良い食事の提供に心掛けている。食事の摂取量を毎食記入して、体調の状態が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じ、口腔ケアの声掛けをして口腔ケアを行ない、夕食後は入歯の洗浄・保管や洗口液の使用など、徹底している。必要に応じて、歯科受診も行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員が把握して時間で誘導するように心掛けている。パットや紙パンツの使用も可能な限り夜間のみとする努力を行なっている。	リハビリパンツからパットや失禁対応パンツに向上させたり、入所を機に失禁も減って通常の排泄となった事例もあります。ごぼう茶、水分摂取、運動による適切な排便コントロールがおこなわれていることから自立へ向けた意識の高さが観えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のペースを理解して、早めに対応出来るようにしている。また、毎日体操や散歩の時間を設けたり、牛乳やごぼう茶を飲んでもらう等、生活の中での工夫も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回以上の入浴を基本として声掛け行い、今入るかどうかを本人に決めて貰ってから、なるべくゆっくりと入浴していただけるようにしている。	3日に1回の入浴を原則としています。足ふきマットと、イスに敷くマットは感染予防のため利用者ごとに毎回替えています。脱衣場にも温度計を設置して体温が急激に変化することを防いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は色々な手伝いをさせていただき、また身体を動かして夜はゆっくりと休んでいただけるようにしている。睡眠を強要せずに、寝たい時間に休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルを作成して、薬情報ははさんである。また、薬の変更時には必ず申し送りノートに記入し、職員全員が読むようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人ひとりが趣味や生活歴を理解するために日頃から情報収集行い、楽しいと思えることを勧められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の30分ほどの散歩外出は出来る限り行い、個別での希望外出等にも対応することが出来るように職員の人員配置に配慮し、買物や家族との外出を支援するなど、定期外出の機会を増やす努力をしている。	事業所前の堤沿いの桜並木が広い遊歩道となっていて、車いすの利用者にとっても快適な散歩コースです。近くの幼稚園との交流も毎年続き、年に2回は見学に出かけています。また法人から自動車が借りられるので、ユニット内の利用者が一緒に外出することができます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望者にはご自分でお金を所持し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の事情が無い限り、好きな時に電話をしていただいたり、手紙を出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は畳の間にコタツがあり、ゆったりと落ち着いている。居間には入居者様の作品や、職員との協同作品などを置いてある。オープンキッチンで食事の支度や匂いなども伝わるようになっている。	共用空間にはカレンダーや行事の写真、季節ごとの創作物が飾られています。日中はカルタやクイズ、歌に合わせた体操のレクリエーションがおこなわれています。利用者が参加しやすいようにゲーム内容を合わせたり、職員の雰囲気づくりがみられ楽しく過ごせる様子が確認されました。	「職員が元気よい」という印象がありましたので、今後もレクリエーションやゲームの充実により楽しく健康に過ごせることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外の時間は、利用者の席順を決めず、気の合う方同士が、好きな場所に座れるようにしている。リビングのソファや畳スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前愛用していた物を置いていただいている。また、ご家族との写真やホームでの写真、入居者様の作品を飾るなどして居室内環境への工夫を行っている。	おしゃれな黒板を表札として、利用者の名前とともにイラストで自分の居室が分かりやすくなっています。ベット、家具、テーブルや仏壇が利用者ごとに持ち込まれ、写真や塗り絵などの作品が並んでいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽、トイレ、廊下などに手すり等設置し、歩行スペースを広く取る為、配置には気を付けている。		